

今月のテーマ

横浜市北部医療圏連携 学術講演会

窪倉理事長がパネリストとして講演

9月12日(火)横浜にて「横浜市北部医療圏連携 学術講演会」が行われ、当協会の窪倉理事長がパネリストとして参加いたしました。「地域包括ケアシステム構築へ向けた北部医療圏の現状と提言」をテーマに、北部医療圏の院長、理事長先生方が、各機能別の立場から地域包括ケア時代に向けたお話をされました。(高度急性期：横浜労災病院 急性期：汐田総合病院 回復期：新横浜リハビリテーション病院 慢性期：元気会横浜病院 在宅医：日横クリニック)

全国的に少子高齢化が進む中で横浜市の医療需要予測や、その中でどう地域医療を支えていくのか各々立場から意見を交わしました。

その中で窪倉理事長は在宅医療需要が増す中、高齢者の救急搬送がすでに増加傾向だが、そのすべてが中核病院へ集中すると高度救命という本来の使命が果たせなくなる。そうならないように、地域の一般急性期病院が高齢者救急に力をいれ、機能分化が大切であること。在宅医療を支えるため具合が悪くなった時に入院できる「バックベッド」を確保、また、多院所が関わり患者を支えるために、情報共有ツール、ICTの整備活用への取り組みが必要との報告をおこないました。



横浜市の医療を取り巻く将来の状況は？

上記の講演会の話の元になっているのが、地域医療構想なのですが、いったいどういったものなのでしょう？地域医療構想は各自治体が団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けた需要と供給側の予測です。近い未来、我々が事業を行う横浜市はどのような医療状況になると予想されているのでしょうか。

- ・人口は減少に転じるが、一方で65歳以上の高齢者は増加していく。特に75歳以上の増加率が高い。
- ・入院患者は2025年以降に増加率がやや鈍るが、2040年まで増加予測。
- ・その為現在の医療体制では需要に対応しきれず、ベッド不足が予測。
- ・2015と2025年比較での需要予測
要介護認定数1.5倍・在宅医療対象者1.8倍・認知症高齢者1.4倍

横浜の地域医療構想の課題及び方向性

- ① 将来不足する病床機能の確保及び連携体制の構築
 - ② 地域包括ケアシステムの推進に向けた在宅医療の充実
 - ③ 将来の医療体制を支える医療従事者の確保・養成
- * 2025年に向けた医療機能の確保について(横浜市医療局)より抜粋
横浜市医療局ホームページに詳しい資料が載っています。



おすすめ書籍

在宅医療 多職種連携 ハンドブック

地域の最前線で活躍中の現場のエキスパート多数執筆！
すぐに実践できるノウハウ満載！
認知症患者は将来的には800万人、65歳以上の25%、80歳以上で50%の時代がやってきます。従来型の医療システムでは、この状況には対応できません。今こそ多職種が連携し、「最期まで住み慣れた地域で生活すること」を支えるための仕組みづくりが必要です。本書は、そのために必要とされる知識と実践方法を網羅し、日々ハンドブックとして活用されることを目的として編集されています。



医療法人社団悠翔会
佐々木淳監修

スタッフのひとこと

「ピカソ」の自画像を見たことがありますか？

最近、子供の夏休みの宿題のために買った「ピカソ」の伝記を読みました。そして、「真の芸術とは何か？」を生涯にわたって追及し、常に現状に満足せず自分を変え続けた姿に感動しました。ピカソの表現スタイルの変貌ぶりは、自画像の変遷をみると本当によくわかります。ネットで検索すると15歳から90歳までの自画像が簡単に見ることができますので、ご興味のある方は是非！ N・M



うしおだ総合ケアセンター

We aim to build a non-discriminatory Integrated Community Care System that supports all

メモリーカフェ



認知症にまつわる悩み、専門スタッフに相談できます♡

汐田総合病院 会場：ラウンジびゅあ(病院2階)

10月12日(木) 11月9日 14:00-16:00

うしおだ診療所 会場：友の会汐田・向井町支部事務所

10月12日(木) 11月9日 14:00-16:00

公益財団法人横浜勤労者福祉協会グループ
〒230-0001 横浜市鶴見区矢向1-6-20

TEL045-574-1013 FAX045-574-1059
✉ ushioda@ushioda.or.jp